

私の戦争体験談

九貫 笑子（大正 15 年生まれ）

1943 年、太平洋戦争の最中、18 歳で海軍省、海外派遣のタイピストの募集に志願しました。マカッサル研究所の赴任となり、12 月朝もやの中、埠頭には、駆逐艦、巡洋艦、徴用船 7 隻、乗船する浅間丸が待機しています。軍艦は船団を鼓舞し、見送る為でした。

浅間丸の船底には、2 段の棚に兵士が乗っています。3,500 の筏も用意されている。敵の潜水艦に常に狙われているので、浮袋を枕に靴を履いたままです。死者も出ます。高官は柩の中、兵士・軍属は自分の毛布に包まれて海に落とされる。海原を漂うものと思っていたのに、音高く沈みました。戸板に、にぎり飯を乗せて流す供養もあり、船も人影も浮いていない。全員黙祷です。戦争の臭いがします。

シンガポールに到着、そこは、戦の臭いもない、太陽燦燦の初めて見る外国でした。そして、ジャカルタ、更に、スラバヤ、目的地のセレベス島です。いつも小さな船は人で溢れていて、その中私達のリュックを探る兵士がいます。何か食べる物を下さいと言っている、手も足も腫れて軍靴を履けず裸足なのです。栄養失調で私達はアメの 1 つも持っていない、ごめんなさいと言っただけ、訴えている眼に答えられませんでした。

生きる知恵と覚悟を学びながら、4 か月後に研究所に到着すると、私達は海の藻屑と思われていました。仕事にも慣れてきてわかった事、銃で戦う前戦、それを支える後方活動です。農林水産、地質鉱物、熱帯衛生と専門分野で研究活動しており、マラリア、赤痢、破傷風、ペスト、食糧危機が兵士の戦意を削ぎ玉砕にも繋がったと聞きます。日英米と共にペニシリンの開発を競う中、研究所が成功して、捕虜の兵士、医師に見放された重症患者を治した画期的な成果でした。

反面、マカッサルは戦況が悪化です。地平線に忽然と敵艦が現れ、爆撃が始まります。私達の通勤は自転車、海岸線を走る時、何もかも忘れて乙女に戻るひと時です。漁船は海に浮かびエンジン音は快調です。椰子の葉に宿る朝露は太陽に光り宝石のようです。突然飛行機が舗装通路をつんざく爆音、低空です。恐怖の中、思わず見上げると若い兵士が私達を見ている、今度は駄目が頭をよぎり、自転車ごと、3 メートル下の土手に次々と落ちました。道路では、嘔り泣く友、やっと爆音が遠ざかり、這い上がって駆け寄ります。化粧した顔、涙と埃だらけ、服は朝露で濡れ乱れてしまい、哀れな姿でした。蜂の子散らす如く逃げ惑う私達を撃たなかったのです。

戦局は益々悪化です。女子はスラバヤに避難となり、友と 2 人艦隊司令部付けとなります。また日夜空襲です。その中、デング熱に感染して倒れました。見兼ねた上司が、病院船阿波丸の乗船手続きをして下さった。それも喜びは 1 日だけで、日本に重要な人物の優先で諦めよ、でした。万国赤十字法で守られた善の病院船が台湾沖で沈められます。諦めきれず涙を流した私は生き延びました。

何も訳も分からずに終戦となり、原爆投下、ポツダム宣言受諾で、各省の女子職員は海軍病院に集結です。日赤の看護婦は終戦と同時に全員阿波丸で帰国、その穴埋めで看護婦見習いとなっ

たのです。従軍看護婦の募集で現地では、慰安婦にさせられたという人達も同じ職場です。これで看護婦になれたと、つぶやく彼女達でした。

スカルノの独立宣言で、インドネシアも戦争です。私達も順次帰国となりましたが、国の盾を失った浮浪者でした。九州に上陸、アメリカ兵が待ち構えていた。砂浜に座らせ、リュックの中から取り上げてゆく。工作兵が打ち研いだ白鞘の短刀も手にしています。お守りでした。初めてアメリカ兵を見て、緊張と屈辱の中、日本人として恥ずかしい姿をみせまいと私達は眼で語り合いました。秘かに青酸カリも用意していた。使う事もなく、帰国しました。そこで私達は別れます。

東京まで二昼夜、乾パンと 1,000 円の支給で汽車に乗ります。広島を通過した時、そこは、黒い瓦礫の街、乗客が人間も溶けたんだよと、話してます。内地も戦っていた。日中戦争から太平洋戦争、あまりにも長い耐乏の日々、私達は国の為一筋と踊ったのでした。

夜汽車の窓から、懐かしい障子戸の灯りが日本に帰って来た実感でした。母は私を抱きしめて迎えてくれた。痩せた父母、まだ 10 代の妹達、みじめな姿でした。勝つまでは欲しがりません、のスローガンでみんな人生を捧げたのです。私達は華やぐ時代、赤とピンクの色に縁がありませんでした。

あれから 60 年も経ちました。目まぐるしい世相に、どうして、なぜが今も起きます。最近、ホッとした事、千の風になっての歌です。

泣かないで下さい　大きな空に
千の風になって　吹き渡っています

海に陸に空に逝った人達が、この大空に舞っていると想う事にしました。私のバックの中に、美しい包装のアメが入っています。欲しい人にいつでもあげられるように。